



平成 14 年 3 月 20 日

各 位

アルゼ株式会社
代表取締役社長 岡田 和生
(登録銘柄 コード番号 6425)
問合せ先 取締役兼執行役員
I R 広報室長 岡田 知裕
TEL 03-5530-3055

平成 14 年 3 月期 通期業績予想の修正について

平成 13 年 11 月 9 日付「平成 14 年 3 月期中間及び通期業績予想の修正について」の公表数値の修正をお知らせ致します。

記

1. 平成 14 年 3 月期通期業績予想の修正

(1) 連結業績予想 (平成 13 年 4 月 1 日 ~ 平成 14 年 3 月 31 日)

(単位: 百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前 回 予 想	142,000	39,000	16,100
今 回 修 正	107,500	24,500	7,600
増 減 率	24.3%	37.2%	52.8%

(2) 単独業績予想 (平成 13 年 4 月 1 日 ~ 平成 14 年 3 月 31 日)

(単位: 百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前 回 予 想	115,000	38,100	18,900
今 回 修 正	84,600	25,400	12,300
増 減 率	26.4%	33.3%	34.9%

(ご参考)

平成 13 年 3 月期 (第 28 期) 業績

(単位: 百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
単 独	161,343	79,904	34,715
連 結	203,262	72,669	10,703

2. 修正理由

[単独]

パチスロ機につきましては、昨年 12 月にゲーム性を重視したパチスロ機「サンダー V2」を発売する等、単月で 41,706 台を販売し、第 3 四半期業績はほぼ計画通りに推移致しました。一方、第 4 四半期は「サンダー V2」に加え、2 月に「オオタコスロ 2」を発売致しました。これら製品の店舗導入率は高水準であるものの、一店舗当たりの導入台数が予想よりも減少したことから、第 4 四半期のパチスロ機販売台数は約 48,000 台となる見込みです。

また、パチンコ機につきましては 2 月に子会社の株式会社ミズホよりパチンコの第 1 号機となる「CR 忠臣蔵」を発売致しました。発売にあたっては製品展示会等を実施致しましたが、パチンコメーカーとしての「ミズホ」ブランドの市場浸透が充分でなかったことから、第 4 四半期のパチンコ機販売台数は約 18,000 台となる見込みです。

結果、通期のパチスロ機の販売台数は約 210,000 台、パチンコ機の販売台数は約 21,000 台（パチコン機含む）となり、単独業績は売上高 84,600 百万円、経常利益 25,400 百万円、当期純利益 12,300 百万円、連結業績は売上高 107,500 百万円、経常利益 24,500 百万円、当期純利益 7,600 百万円となる見込みです。

[連結]

連結業績予想につきましては、上記の単独業績予想に伴う修正であります。

3. 今後の見通し

かねてより特許戦略の重要性が高まってきておりますが、当社におきましては当社の最も得意とする企画力及び技術力から生み出される特許を活かした特許戦略を最大限に重視してまいりました。先日の特許権に関する損害賠償請求訴訟の勝訴につきましても、知的財産権をめぐる国内訴訟では約 8.4 億円という過去最高の賠償額となりました。

今後の市場につきましては、ボーナスゲームを中心とした連チャン性が魅力の機械が中心となることが予測されます。これに対して当社はいち早くボーナスゲームのストック機能の特許出願を行っており、4 月以降からこれらの機能を搭載し、更にパチスロ機の原点であるギャンブル性と期待感の魅力を両立した画期的な新製品を毎月継続的に発表できる体制が整っております。

社内的には前期から今期前半まで影響した営業人員の慢心によるマイナス要因が業績の悪化をもたらしましたが、それらを改善すべく、組織全体の大幅な改革を行ってまいりました。その結果、現時点における組織力は強化されつつあります。

来期におきましては上記の取り組みによりプレイヤーが安心して楽しめる良い機械を継続して提供できるものと確信しております。更に、従来より行ってきましてリサイクルやコストダウン、部品の信頼性の向上や製造における効率の追求等、メーカーとしての先を見越した取り組みの効果も明確に発揮出来るものと見込んでいます。

以 上